

平成30年度大阪市精神保健福祉審議会自殺防止対策部会の開催状況について

第23回 大阪市精神保健福祉審議会 自殺防止対策部会

実施日：平成31年3月20日（水）14時00分～16時00分

場所：大阪市こころの健康センター 大会議室

議題：（1）平成29年中における大阪市の自殺の状況について
（2）平成30年度の自殺対策の実施状況について
（3）平成31年度の自殺対策の取り組みについて
（4）その他

*出席委員数は11名中7名

委員名簿（平成31年3月1日現在）

部会長	古塚 大介	大阪市立総合医療センター 精神神経科部長
部会委員	碓 英一	（社福）関西いのちの電話 事務局長
部会委員	育田 瑞穂	大阪司法書士会 市民権利擁護委員会委員長
部会委員	大藤 さとこ	大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学 准教授
部会委員	澤 温	（一社）大阪精神科病院協会 理事
部会委員	堤 俊仁	（公社）大阪精神科診療所協会 会長
部会委員	林 和子	自死遺族代表
部会委員	藤井 美和	関西学院大学 人間福祉学部人間科学科 教授
部会委員	北條 達人	（特非）国際ビフレンダーズ大阪自殺防止センター 所長
部会委員	前久保 邦昭	（一社）大阪府医師会
部会委員	森岡 学	（独）労働者健康安全機構大阪産業保健総合支援センター 副所長

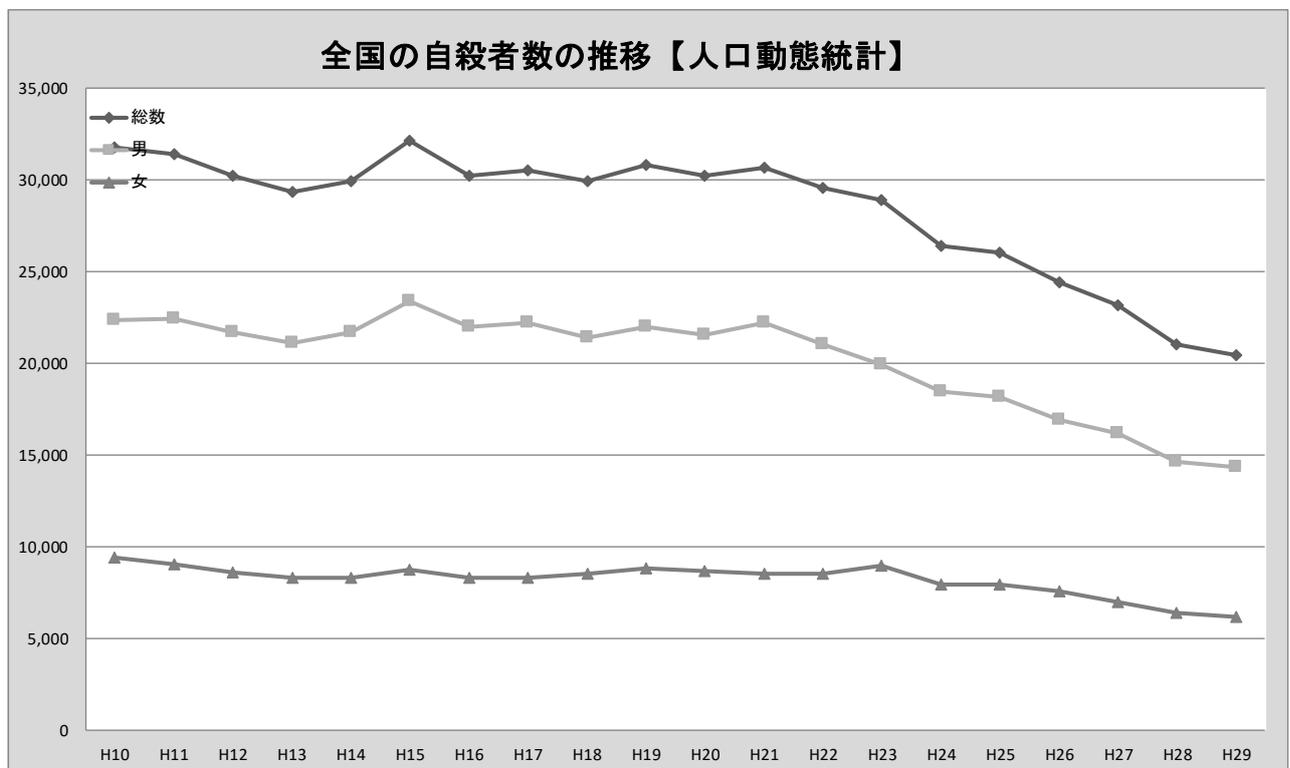
大阪市の自殺の状況：その推移と平成29年の現況

1. 全国の自殺者数の推移（人口動態統計：H10～H29）

男女総計：自殺死亡者数は、昭和 55 年（1980 年）以降概ね年間 2 万人から 2 万 5 千人の間で推移していたが、平成 10 年（1998 年）に急増し、戦後初めて 3 万人を超えた（31,755 人）。その後も増減しながら平成 21 年までは概ね年間 3 万人前後で推移し、平成 23 年以降は一貫して減少傾向を維持しており、平成 29 年は急増前の平成 9 年を下回るまで減少した平成 28 年よりさらに減少している。

男性：平成 10 年以降では、男性の自殺死亡数は女性のほぼ 2～3 倍で推移しており、男女総計の自殺死亡の傾向は男性のそれとほぼ同様となっている。

女性：平成 10 年に 9 千人台に増加したが、平成 12 年以降は 8 千人台で推移し、男性と同様に平成 23 年以降は一貫して減少傾向を維持しており、平成 27 年以降は急増前の平成 9 年の 7 千人台を下回る 6 千人台まで減少している。



全国の自殺者数の推移

年次別	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
総数	31,755	31,413	30,251	29,375	29,949	32,109	30,247	30,553	29,921	30,827	30,229	30,707	29,554	28,896	26,433	26,063	24,417	23,152	21,017	20,465
男	22,349	22,402	21,656	21,085	21,677	23,396	21,955	22,236	21,419	22,007	21,546	22,189	21,028	19,904	18,485	18,158	16,875	16,202	14,639	14,333
女	9,406	9,011	8,595	8,290	8,272	8,713	8,292	8,317	8,502	8,820	8,683	8,518	8,526	8,992	7,948	7,905	7,542	6,950	6,378	6,132

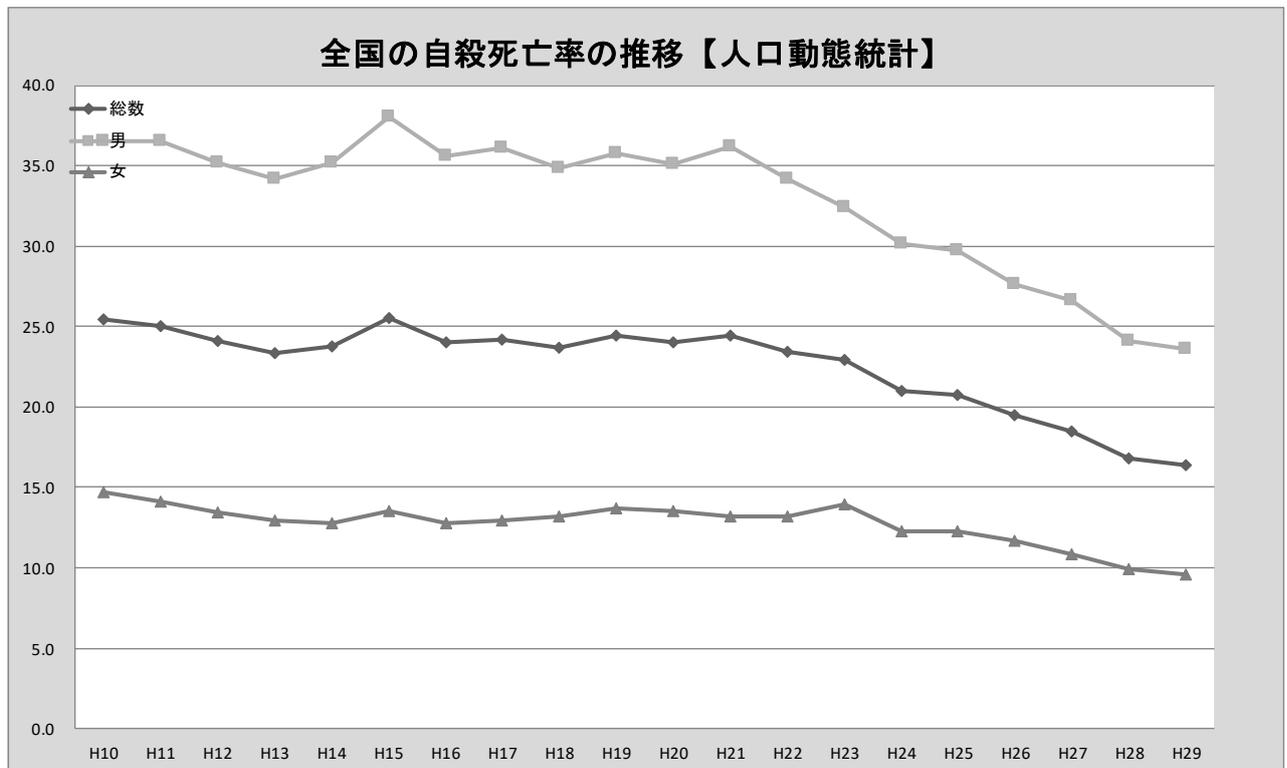
資料：「人口動態統計」より

2. 全国の自殺死亡率の推移（人口動態統計：H10～H29）

男女総計：傾向は自殺死亡者数と同様であり、昭和 55 年（1980 年）以降は増加した年でも人口 10 万人当たり（以下単位同様）22 未満で推移していたが、平成 10 年（1998 年）に急増し（25.4）、その後増減しながらも平成 22 年までは概ね 23～24 台で推移し、平成 23 年以降は一貫して減少傾向を維持しており、平成 29 年は急増前の平成 9 年（16.8）を下回るまで減少した平成 28 年よりさらに減少している。平成 10 年から平成 29 年の減少率は 35%となっている。

男性：平成 10 年以降では、男性の自殺死亡率は女性のほぼ 2～3 倍で推移しており、男女総計の自殺死亡率の傾向は男性のそれとほぼ同様となっている。平成 10 年から平成 29 年の減少率は 35%となっている。

女性：平成 10 年に増加したものの、平成 12 年以降は 12～13 台で推移し、男性と同様に平成 23 年以降は減少傾向を維持しており、平成 27 年以降は急増前の平成 9 年（11.9）を下回り平成 29 年は 9.6 まで減少している。平成 10 年から平成 29 年の減少率は 35%となっている。



全国の自殺死亡率の推移

年次別	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
総数	25.4	25.0	24.1	23.3	23.8	25.5	24.0	24.2	23.7	24.4	24.0	24.4	23.4	22.9	21.0	20.7	19.5	18.5	16.8	16.4
男	36.5	36.5	35.2	34.2	35.2	38.0	35.6	36.1	34.8	35.8	35.1	36.2	34.2	32.4	30.1	29.7	27.6	26.6	24.1	23.6
女	14.7	14.1	13.4	12.9	12.8	13.5	12.8	12.9	13.2	13.7	13.5	13.2	13.2	13.9	12.3	12.3	11.7	10.8	9.9	9.6

資料：「人口動態統計」より

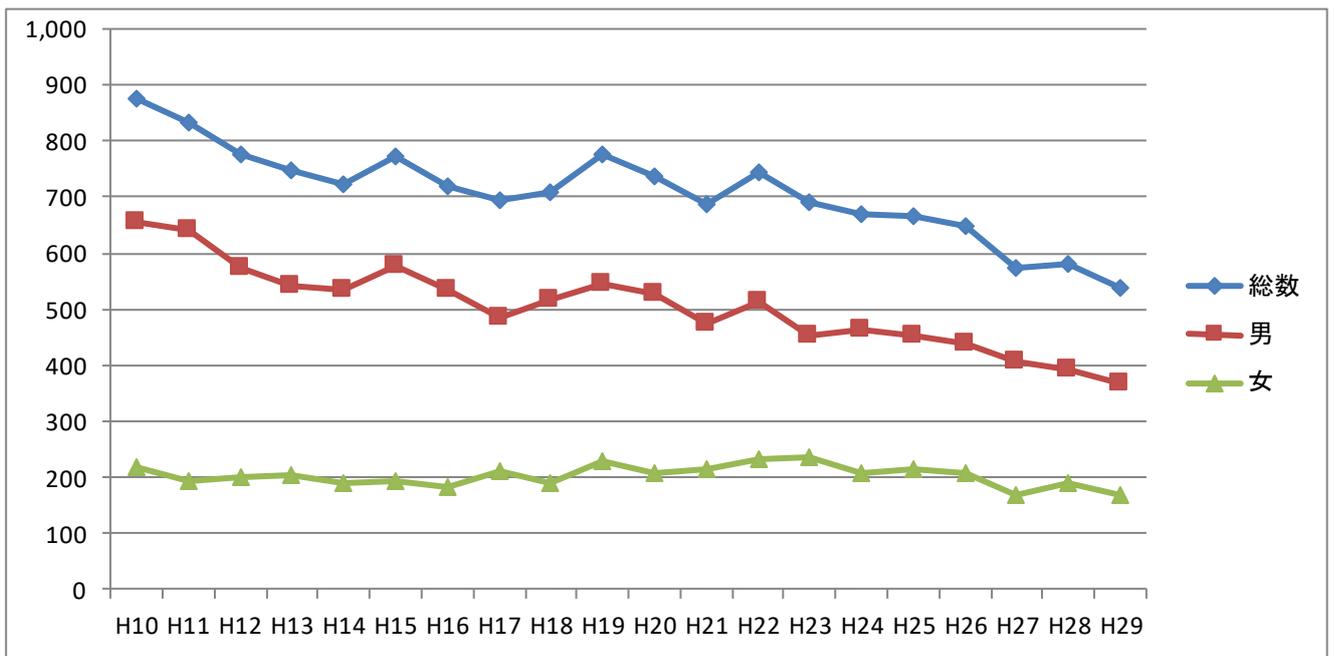
3. 大阪市の自殺者数の推移（人口動態統計：H10～H29）

男女総計：全国の傾向と同様に、平成9年の525人から平成10年には年間876人と急増したが、平成11年から全国に先駆けて減少し始めた。その後、全国の自殺死亡数は平成21年まではほぼ横ばいであったのに対して、大阪市の自殺死亡数は平成17年には、一旦年間700人を下回り、その後微増と微減を繰り返しながら、平成22年まではほぼ横ばいに経過した。平成23年以降は、全国値の傾向と同様に減少傾向を維持し700人未満となり、平成29年には537人となった。この数は急増する前の平成9年より多いが、平成9～29年の間に大阪市の推計人口は約11万人以上増加していることも考慮する必要がある。

男性：男女総計とほぼ同様の傾向となっている。

女性：平成9年から平成10年に増加したものの、以降は200人前後の横ばいで推移していた。平成17年からは増加傾向に転じ、平成23年までは230人台となる年も続いた。平成24年以降はやや減少して推移している。

大阪市の自殺者数の推移（人口動態統計）



自殺者数の推移

年次別	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
総数	876	832	776	748	724	773	719	696	708	776	738	688	744	691	671	667	647	573	580	537
男	656	640	574	543	535	578	535	486	517	546	529	473	512	454	464	452	439	406	391	369
女	220	192	202	205	189	195	184	210	191	230	209	215	232	237	207	215	208	167	189	168

資料：「人口動態統計」より

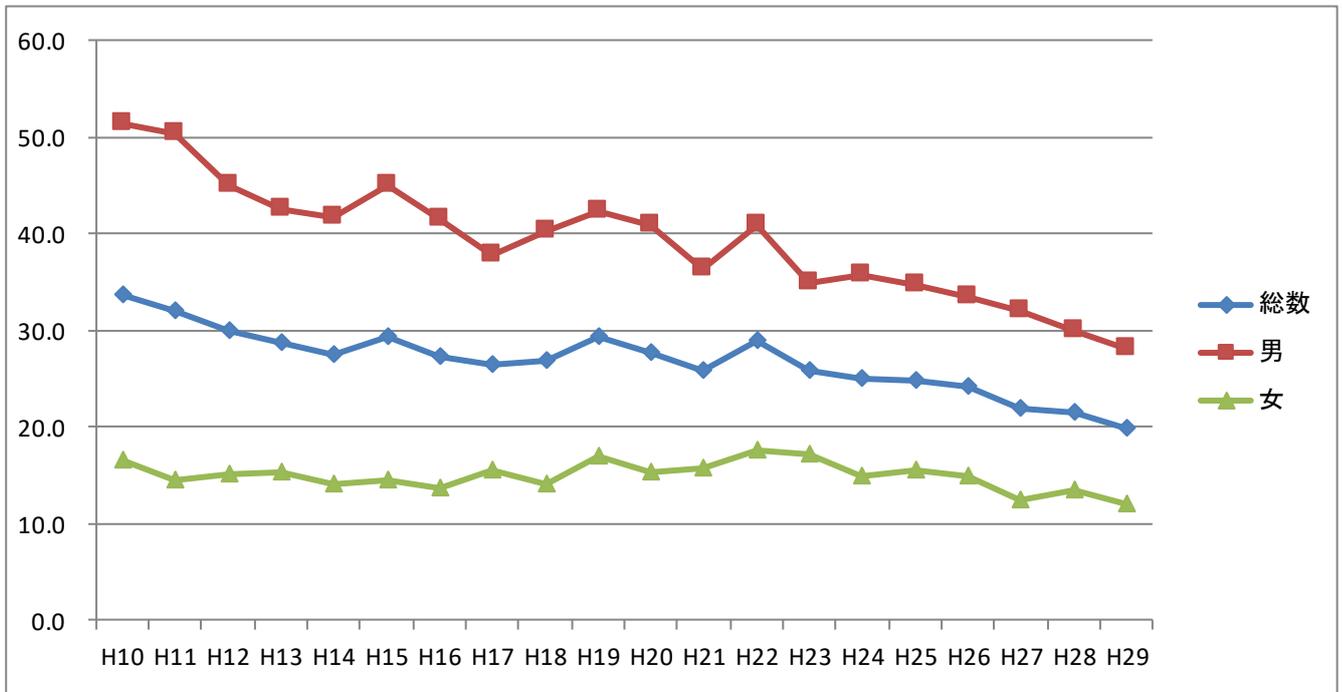
4. 大阪市の自殺死亡率の推移（人口動態統計：H10～H29）

男女総計：全国の傾向と同様に平成10年に急増したが、平成12年から全国に先駆けて減少し始めた。その後、全国の自殺死亡率は平成21年まで微減であったのに対して、大阪市の自殺死亡率は平成17年には、すでに平成10年の値の20%減少となっており、その後微増と微減を繰り返しながら、平成22年まではほぼ横ばいに経過した。平成23年以降は、全国値の傾向と同様に減少傾向を維持し、平成29年には、急増前の平成9年よりも低い19.8となっている。また、平成10年から平成28年の減少率は全国値を上回る41%となっている。

男性：男女総計とほぼ同様の傾向となっている。平成10年から平成29年の減少率は全国値を上回る45%となっている。

女性：自殺死亡数と同様である。平成10年から平成29年の減少率は、全国値を下回る28%となっている。

大阪市の自殺死亡率の推移(人口動態統計)



自殺死亡率の推移

年次別	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
総数	33.7	32.1	29.9	28.7	27.6	29.4	27.3	26.5	26.8	29.3	27.8	25.8	29.0	25.9	25.1	24.9	24.1	22.0	21.5	19.8
男	51.5	50.3	45.1	42.5	41.8	45.0	41.6	37.9	40.3	42.4	40.9	36.4	41.0	35.0	35.7	34.7	33.5	32.1	29.9	28.1
女	16.6	14.5	15.2	15.4	14.1	14.5	13.6	15.6	14.1	16.9	15.4	15.8	17.6	17.2	15.0	15.6	15.0	12.4	13.5	12.0

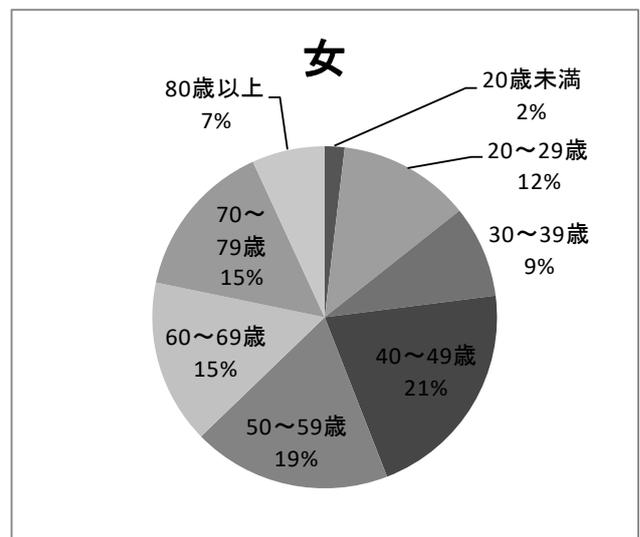
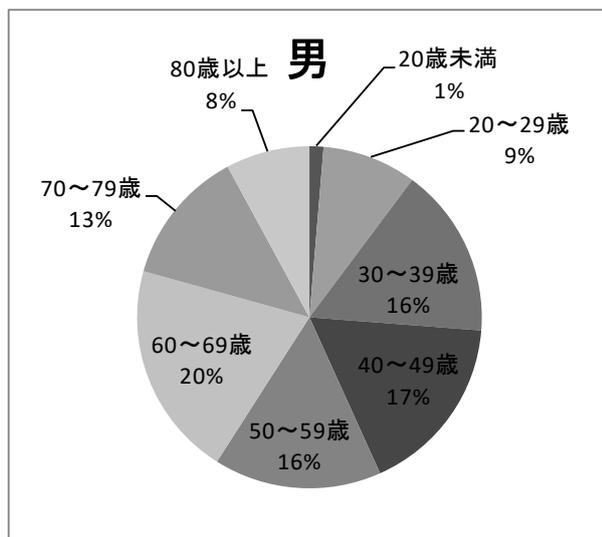
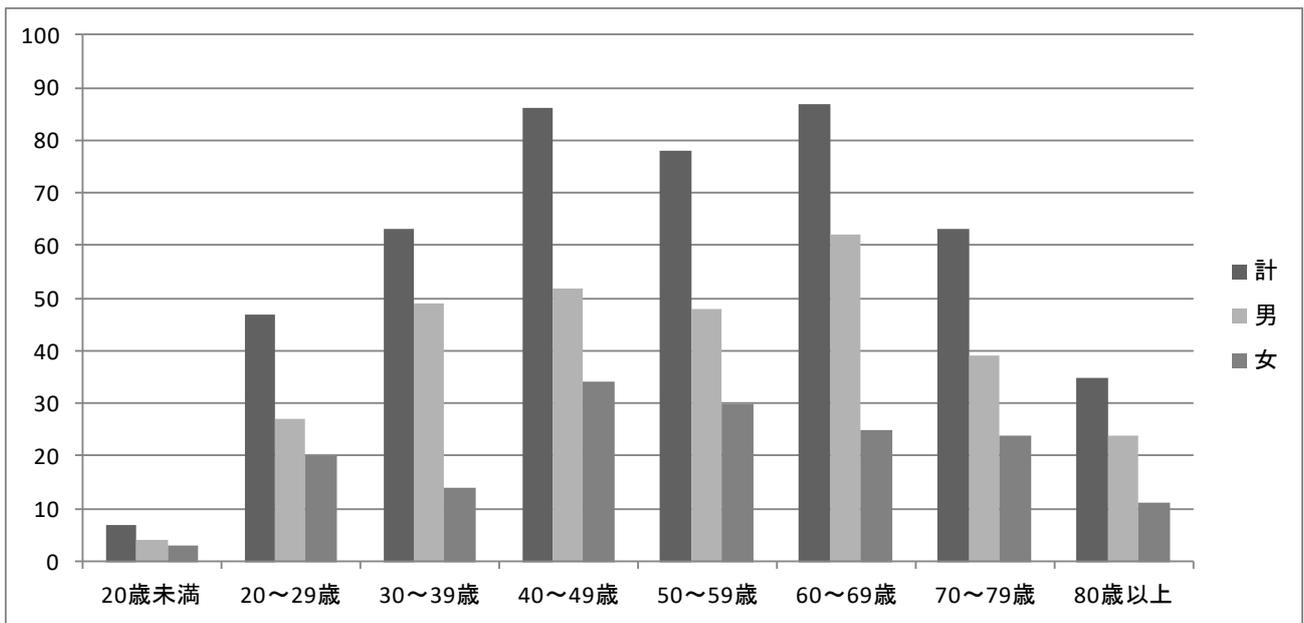
資料：「人口動態統計」より

5. 年齢別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

平成29年の本市の自殺者数466人（男性305人（65%）、女性161人（35%））を年齢別にみると、60歳代が最も多く87人（18.7%）、ついで40歳代86人（18.5%）、50歳代78人（16.7%）、同数で30歳代、70歳代が63人（13.5%）となっている。

男女別でみると、男性は60歳代がもっとも多く、30歳代・40歳代・50歳代でほぼ差のない状況となっているが、女性は40歳代・50歳代が多く、20歳代・30歳代・60歳代・70歳代は大差ない状況となっている。

平成29年 年齢別・男女別の自殺者数（内閣府・警察庁統計）



年齢別男女別

年齢	20歳未満	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計
計	7	47	63	86	78	87	63	35	466
男	4	27	49	52	48	62	39	24	305
女	3	20	14	34	30	25	24	11	161

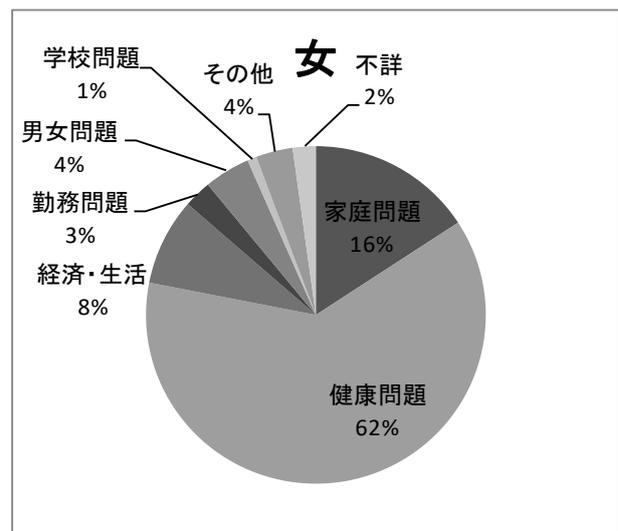
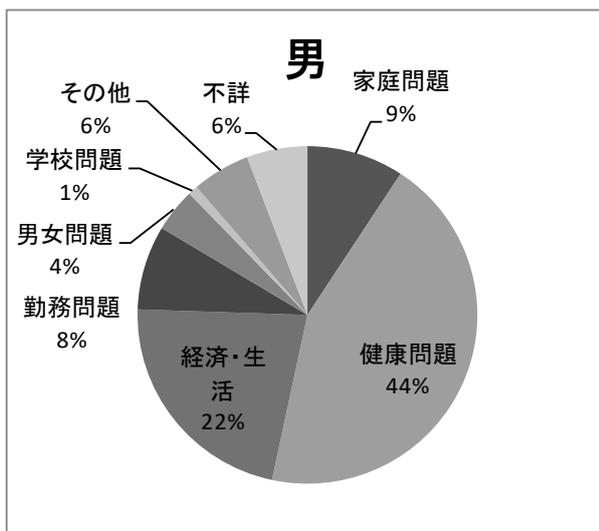
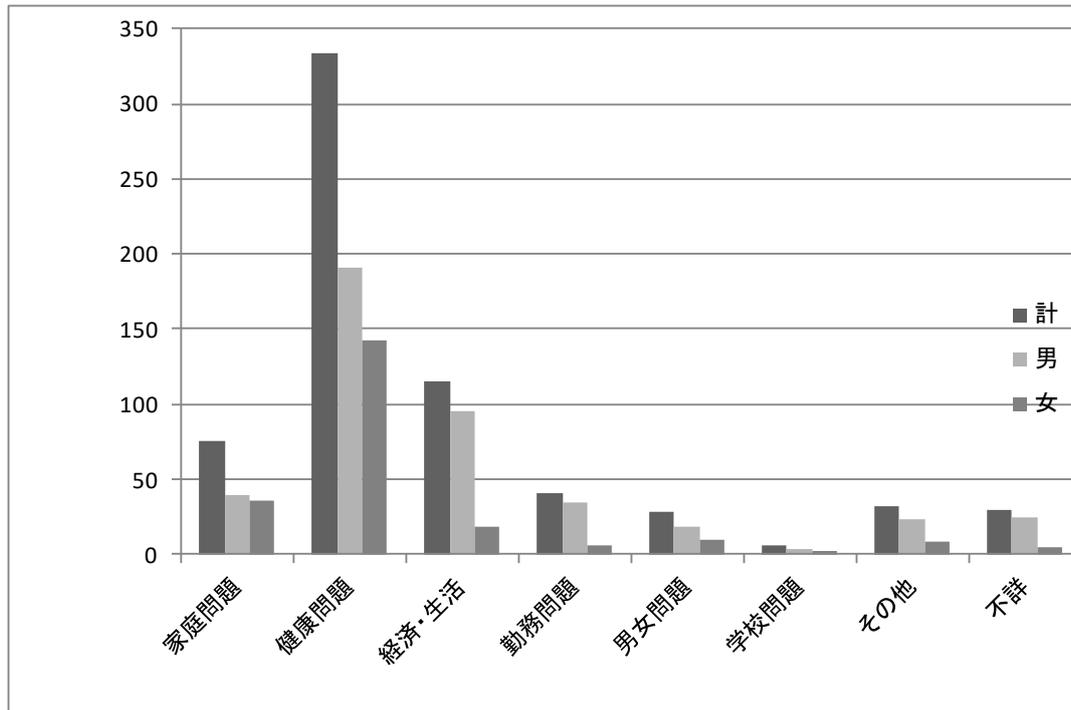
6. 原因別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

（遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を、自殺者一人につき3つまで計上可能として警察庁が集計した結果）

自殺の原因・動機としては、平成29年は「健康問題」が50%と最も多く、次いで「経済・生活問題」（17%）、「家庭問題」（12%）となっている。

男女別で見ると、男女とも「健康問題」が一番多かったが、女性はその割合が62%と男性の44%より大きくなっている。次に男性は「経済・生活問題」が多いのに対し、女性は「家庭問題」が多くなっている。

平成29年 原因別・男女別（内閣府・警察庁統計）



原因別・男女別

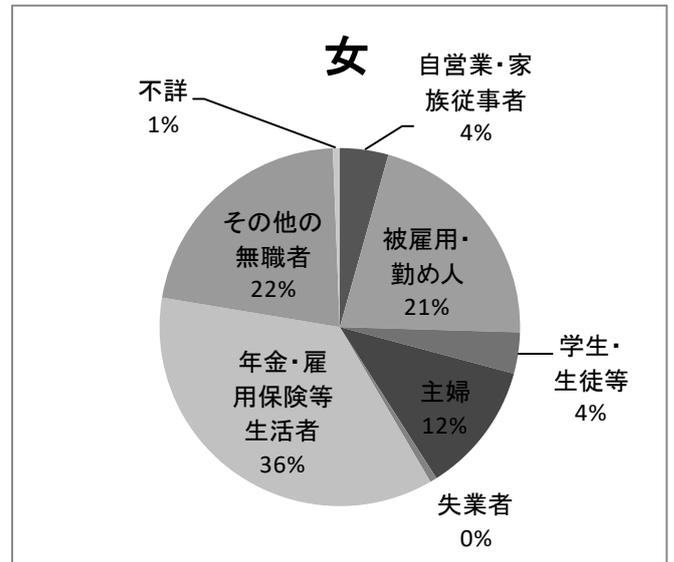
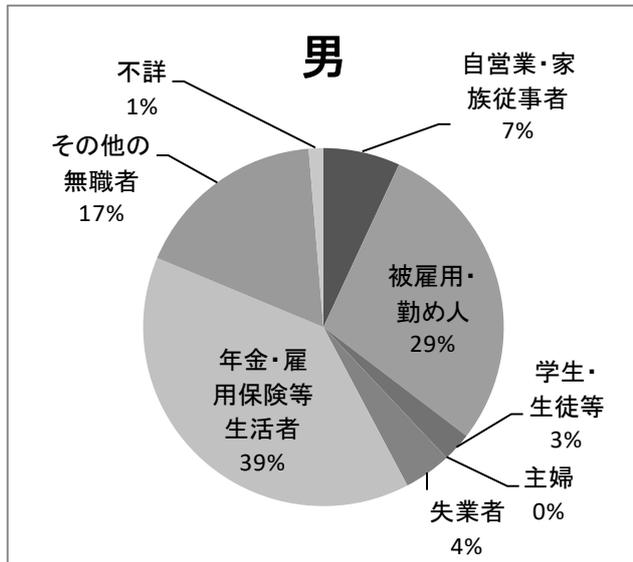
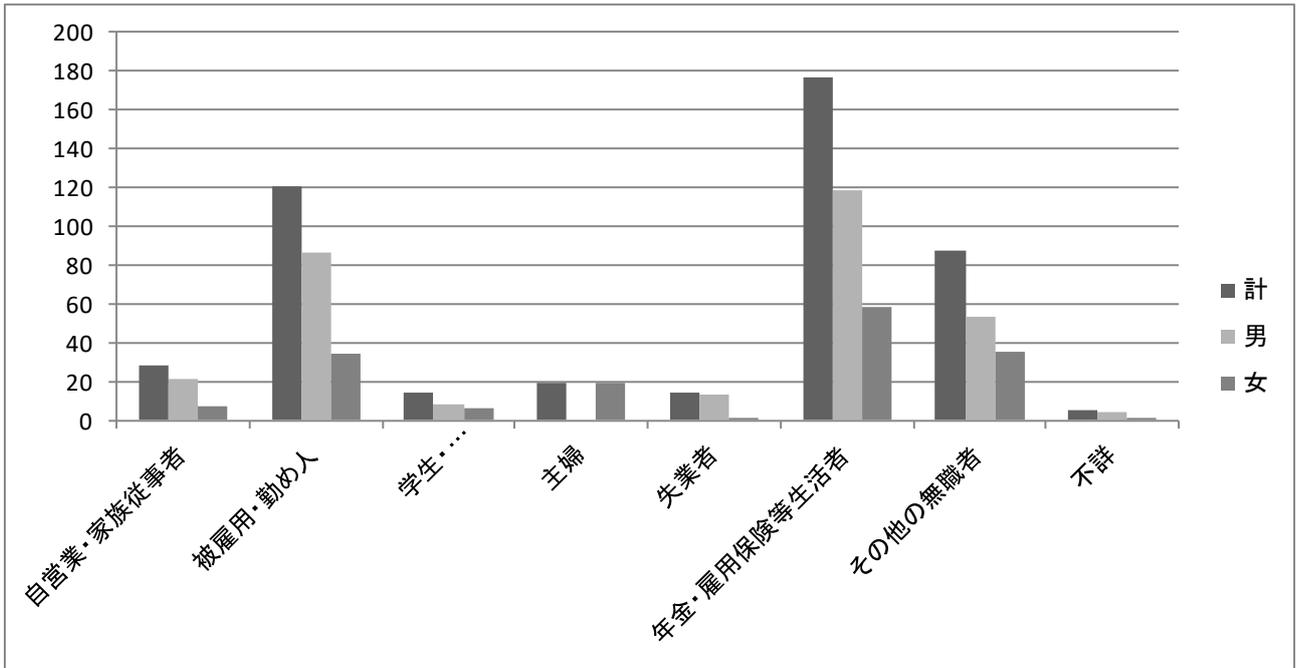
原因	家庭問題	健康問題	経済・生活	勤務問題	男女問題	学校問題	その他	不詳	計
計	76	333	115	41	28	6	32	30	661
男	40	191	96	35	18	4	24	25	433
女	36	142	19	6	10	2	8	5	228

7. 職業別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

職業別で見ると「年金・雇用保険等生活者」が177人（38%）と最も多く、次いで「被雇用・勤め人」が121人（26%）、「その他の無職者」88人（19%）となっている。

男女別では、男女とも「年金・雇用保険等生活者」の割合が最も多く、男性は次いで「被雇用・勤め人」、「その他の無職者」の順となっているが、女性は「その他の無職者」、「被雇用・勤め人」がほぼ同数となっている。

平成29年 職業別・男女別（内閣府・警察庁統計）



職業別・男女別

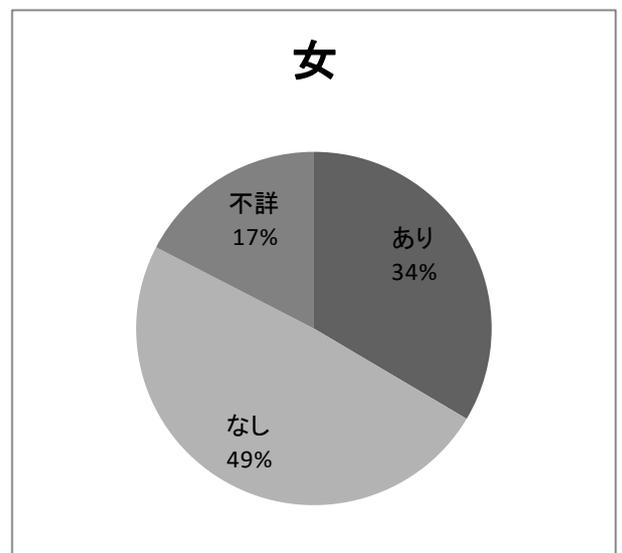
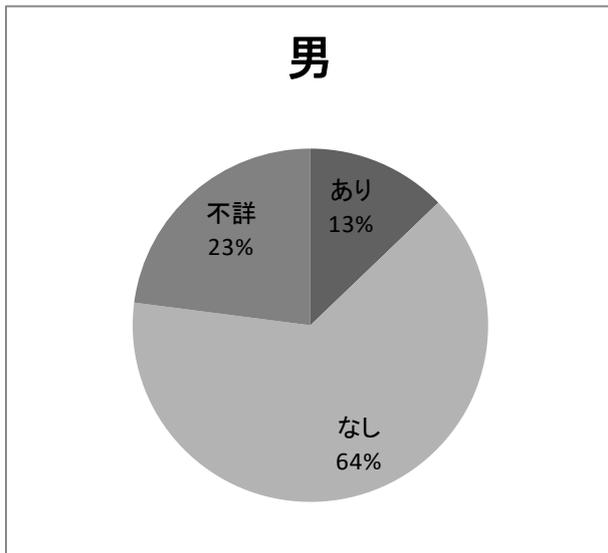
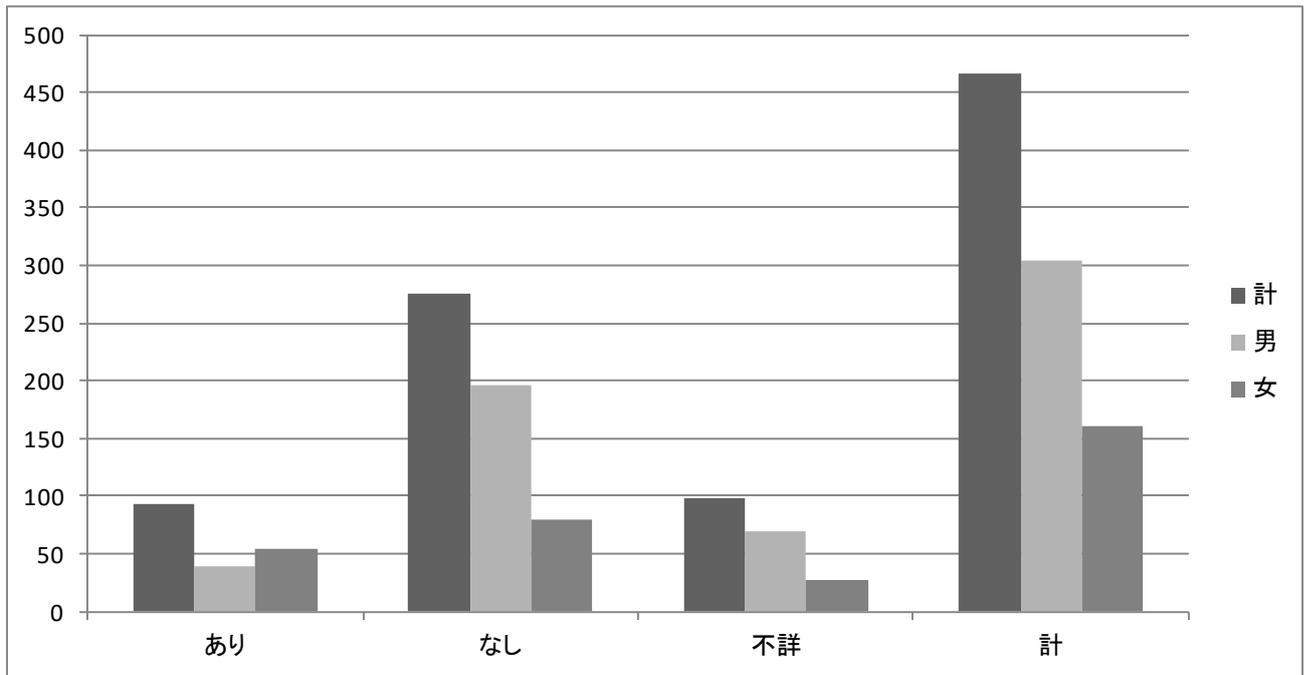
職業	自営業・家族従事者	被雇用・勤め人	学生・生徒等	主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者	その他の無職者	不詳	計
計	28	121	14	19	14	177	88	5	466
男	21	87	8	0	13	119	53	4	305
女	7	34	6	19	1	58	35	1	161

8. 既遂者における自殺未遂の有無・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

既遂者における自殺未遂の有無別で見ると、「未遂なし」が 275 人(59.0%)、「未遂あり」93 人(20.0%)となっている。

男女別で見ると男性では自殺未遂歴「なし」が 64%（全国値 66%）、「あり」が 13%（全国値 14%）、女性では自殺未遂歴「なし」が 49%（全国値 55%）、「あり」が 34%（全国値 30%）となっている。

平成29年 既遂者における自殺未遂の有無・男女別（内閣府・警察庁統計）



既遂者における自殺未遂の有無・男女別

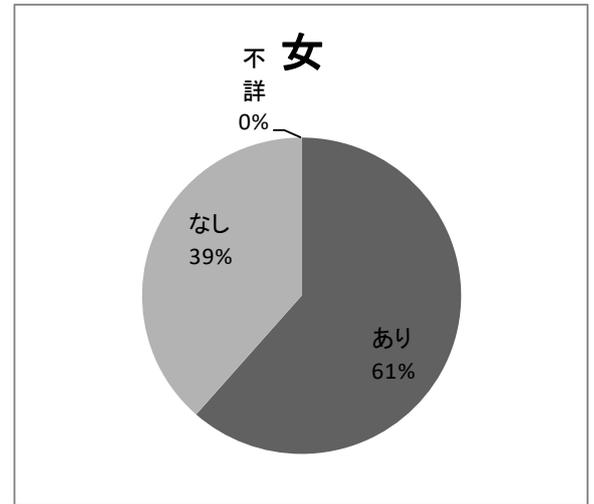
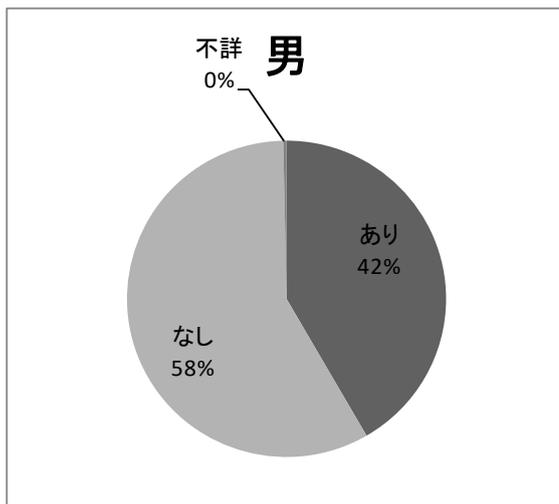
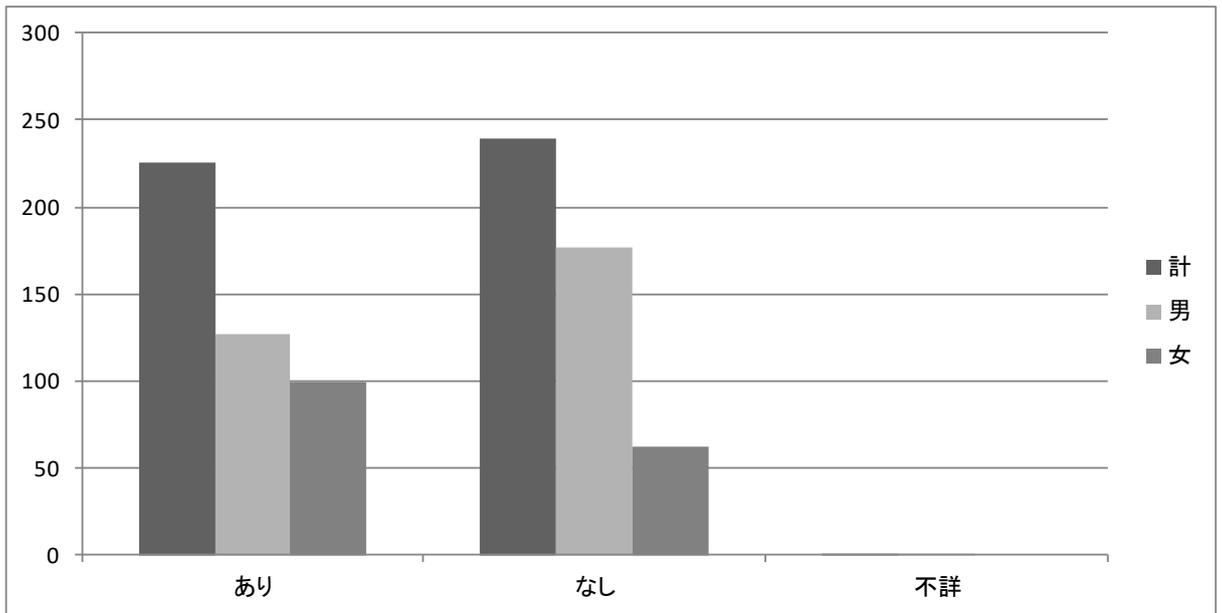
自殺未遂	あり	なし	不詳	計
計	93	275	98	466
男	39	196	70	305
女	54	79	28	161

9. 同居人の有無・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

同居人の有無別でみると、「同居人あり」が226人（48.5%）、「同居人なし」が239人（51.3%）となっている。

男女別でみると、全国では男女とも「同居人あり」が「同居人なし」より約2倍多くなっているが、本市においては男性において「同居人なし」の方が多くなっている。

平成29年 同居人の有無・男女別（内閣府・警察庁統計）



同居人の有無・男女別

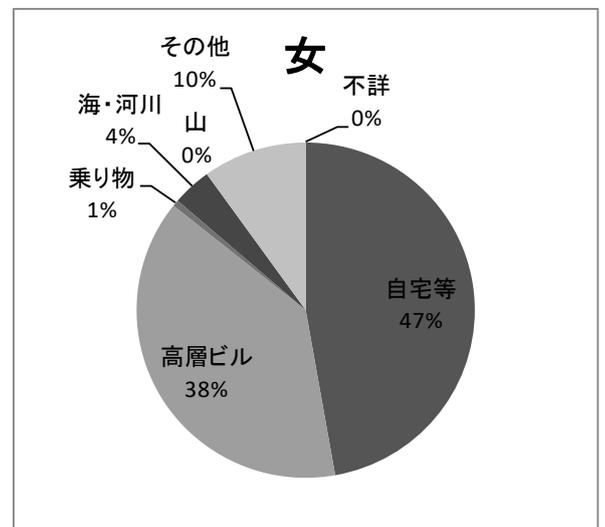
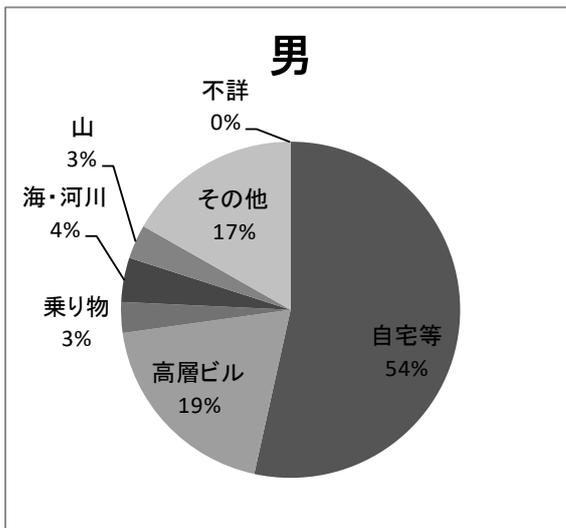
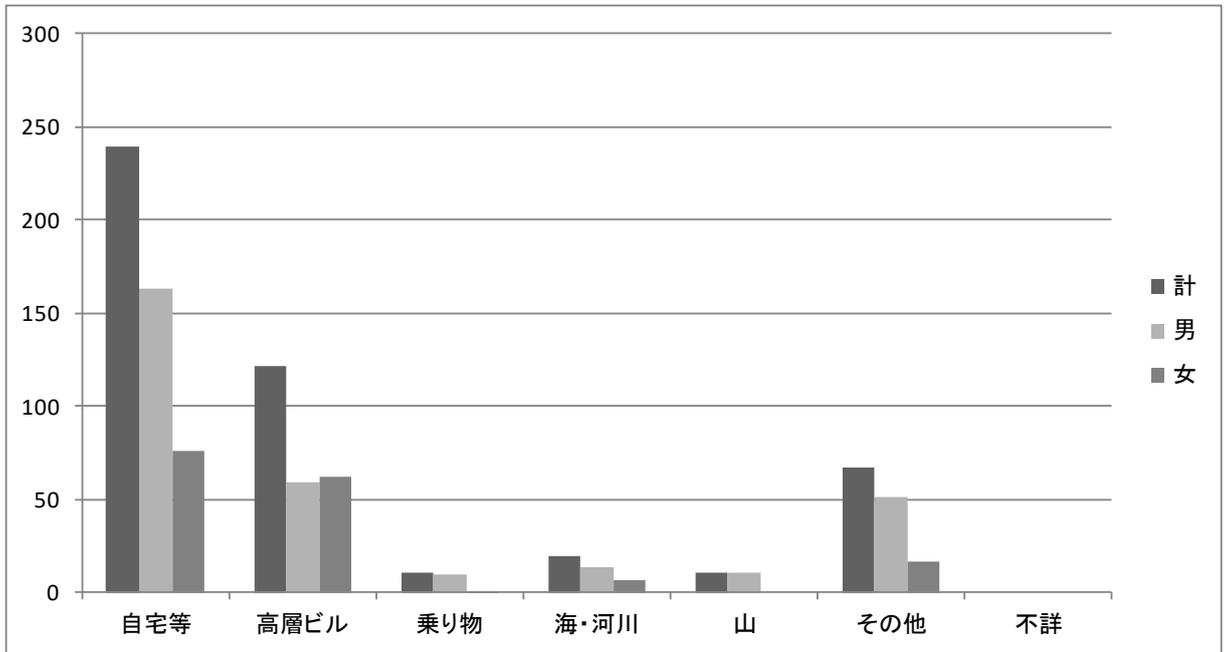
同居人	あり	なし	不詳	計
計	226	239	1	466
男	127	177	1	305
女	99	62	0	161

10. 場所別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

場所別で見ると、男女ともに「自宅等」が最も多く、次いで「高層ビル」、「海（湖）・河川」となっている。

男女別でも同様の順であるが、男性では次いで「乗り物」、「山」での発生がみられる。

平成29年 場所別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）



場所別・男女別自殺者数

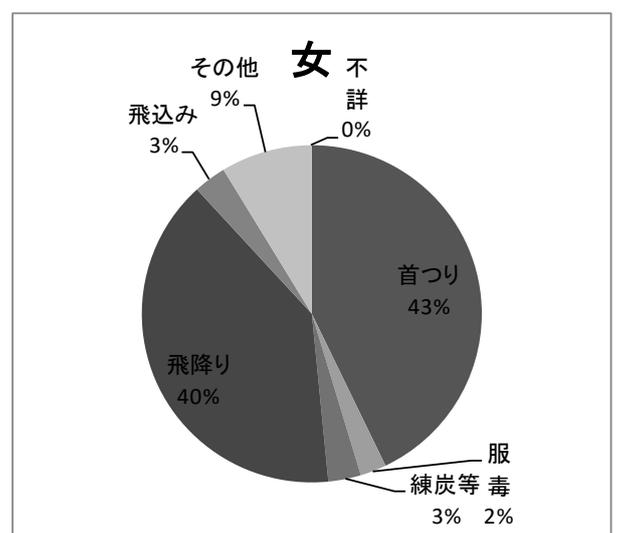
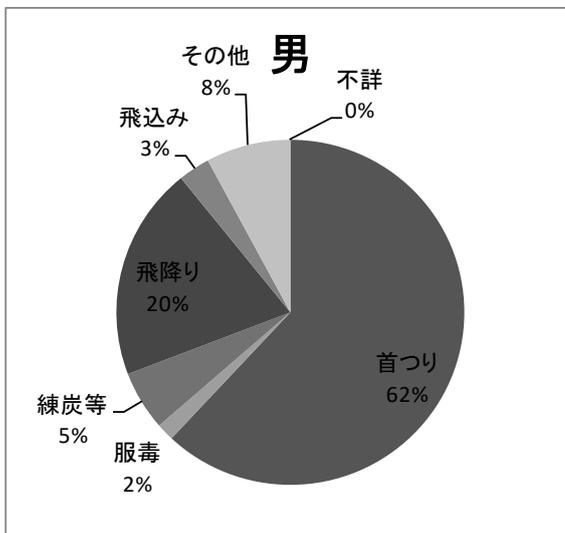
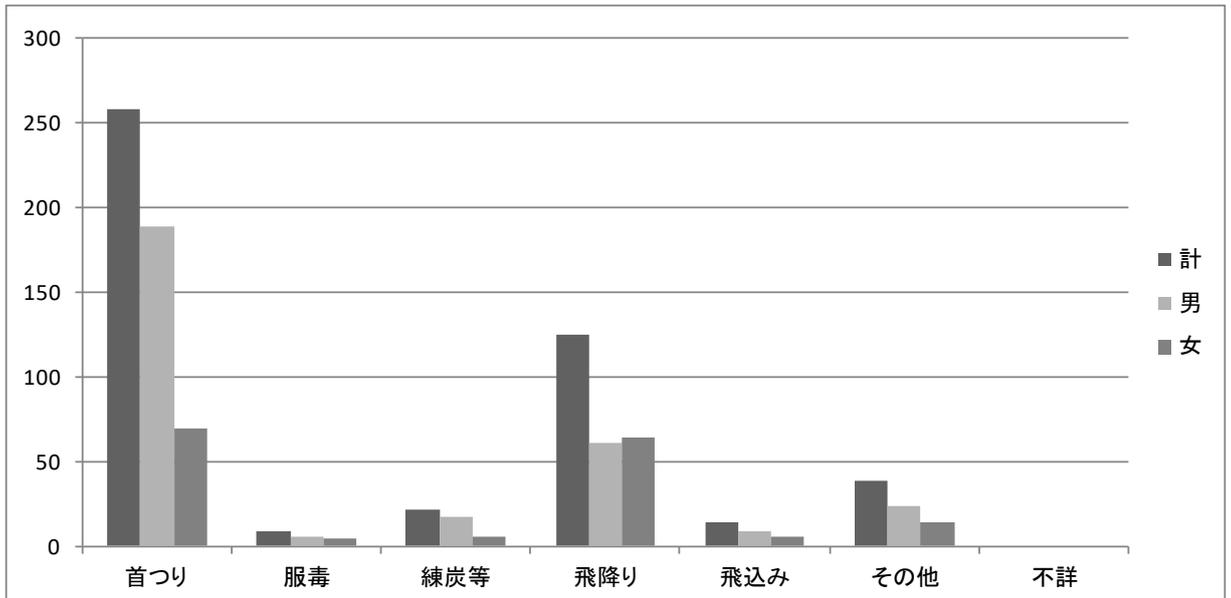
場所	自宅等	高層ビル	乗り物	海・河川	山	その他	不詳	計
計	239	121	10	19	10	67	0	466
男	163	59	9	13	10	51	0	305
女	76	62	1	6	0	16	0	161

11. 手段別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

手段別で見ると、「首つり」が最も多く、次いで「飛降り」となっている。

男女別で見ると、男性は「首つり」が62%と最も多いが、女性では「首つり」と「飛降り」がほぼ同数で多くなっている。

平成29年 手段別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）



手段別・男女別自殺者数

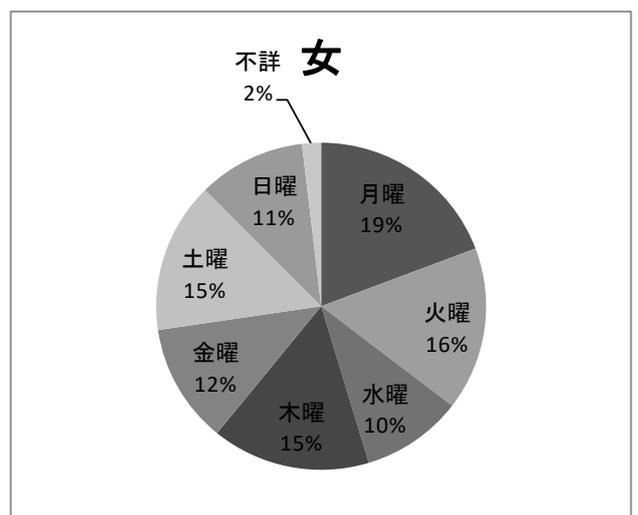
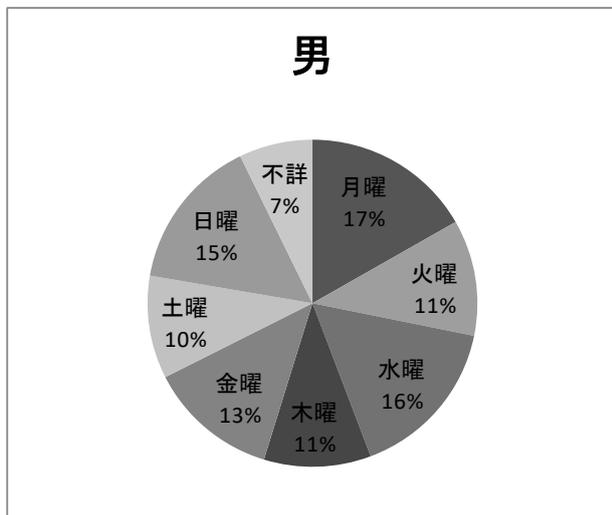
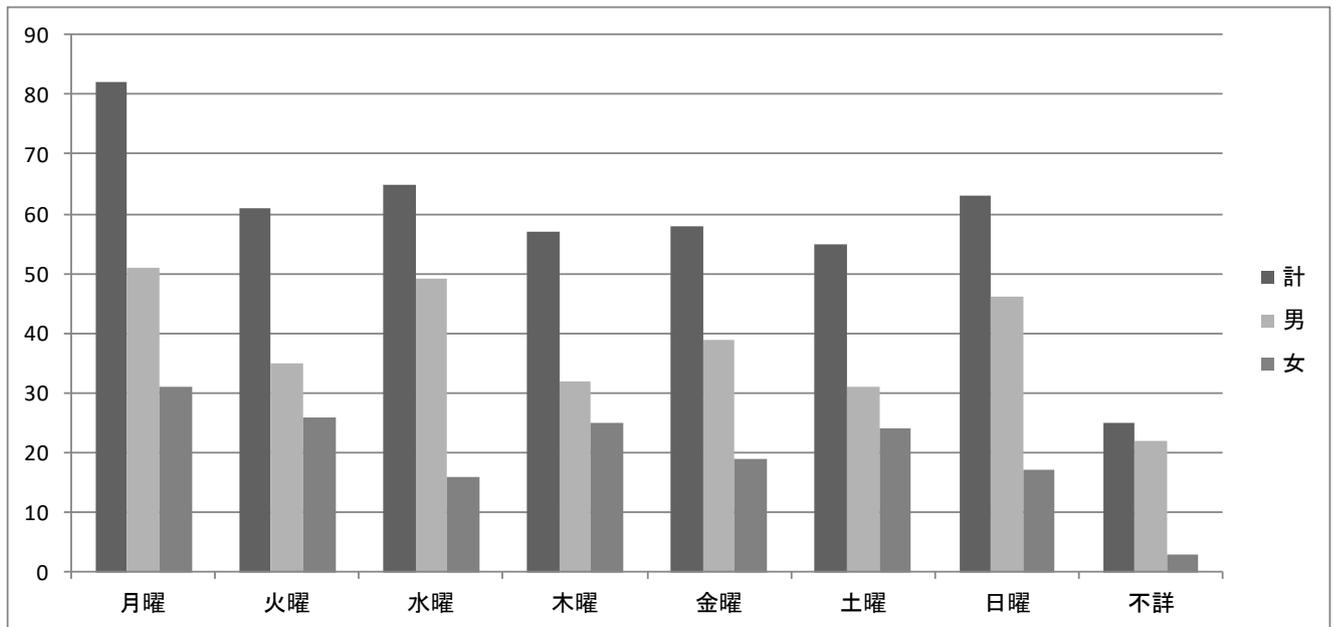
手段	首つり	服毒	練炭等	飛降り	飛込み	その他	不詳	計
計	258	9	22	125	14	38	0	466
男	189	5	17	61	9	24	0	305
女	69	4	5	64	5	14	0	161

12. 曜日別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

曜日別で見ると、「月曜日」が82人（17.6%）と最も多く、その他の曜日は均衡した値となっている。

男女別で見ると、男性は「月曜日」、「水曜日」がほぼ同数で、次いで「日曜日」が多くなっている。女性は「月曜日」が最も多く、次いで「火曜日」、「木曜日」、「土曜日」がほぼ同数で多くなっている。

平成29年 曜日別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）



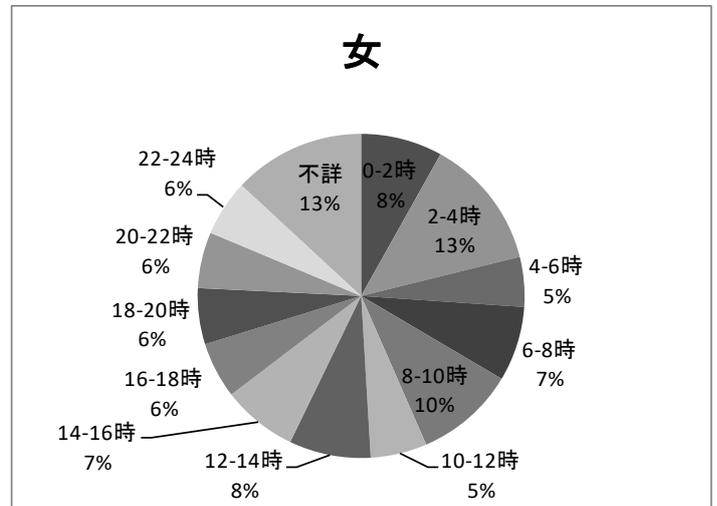
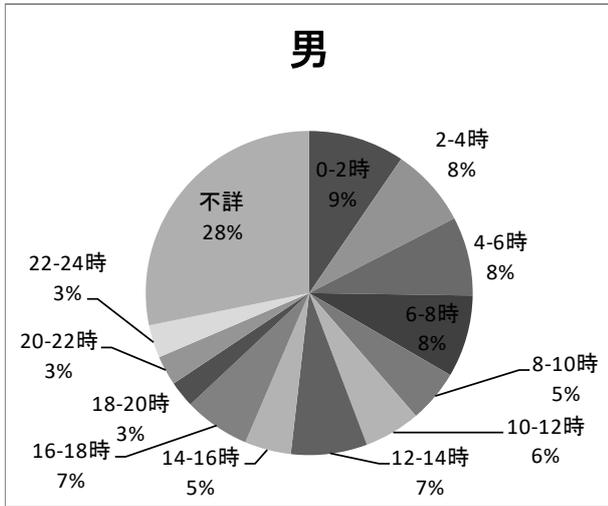
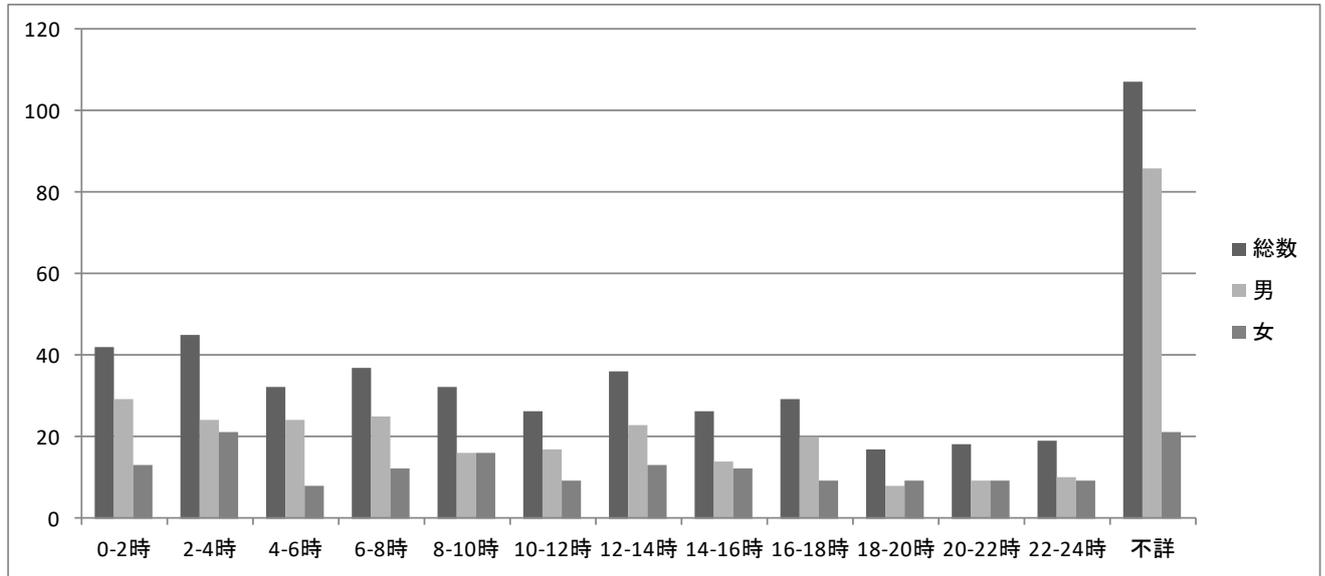
曜日別・男女別自殺者数

曜日	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	不詳	計
計	82	61	65	57	58	55	63	25	466
男	51	35	49	32	39	31	46	22	305
女	31	26	16	25	19	24	17	3	161

1 3. 発見時間帯別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

自殺者を発見した時間帯別で見ると、「2-4時」が45人(9.7%)と最も多く、ついで「0-2時」が42人(9.0%)となっているが、「18-20時」、「20-22時」、「22-24時」を除いては多少の差はあるものの、全ての時間帯に均衡した結果となっているが、年により変動がみられる。

平成29年 発見時間帯別・男女別自殺者数(内閣府・警察庁統計)



時間帯別・男女別

時間帯	0-2時	2-4時	4-6時	6-8時	8-10時	10-12時	12-14時	14-16時	16-18時	18-20時	20-22時	22-24時	不詳	計
総数	42	45	32	37	32	26	36	26	29	17	18	19	107	466
男	29	24	24	25	16	17	23	14	20	8	9	10	86	305
女	13	21	8	12	16	9	13	12	9	9	9	9	21	161

14. 区別の自殺死亡率及び自殺者数の状況（内閣府・警察庁統計）

平成29年 区別の自殺死亡率及び自殺者数の状況（内閣府・警察庁統計）

区名	自殺者数			自殺死亡率		
	男	女	計	男	女	男女
北区	7	10	17	12.09	16.08	14.16
都島区	8	3	11	15.98	5.57	10.59
福島区	2	3	5	5.85	7.90	6.93
此花区	7	2	9	21.08	5.81	13.31
中央区	11	4	15	24.35	7.73	15.48
西区	9	4	13	20.13	8.06	13.78
港区	10	4	14	24.80	9.65	17.12
大正区	5	3	8	15.14	8.90	11.99
天王寺区	3	9	12	8.65	22.39	16.03
浪速区	13	9	22	38.64	28.10	33.50
西淀川区	7	3	10	14.51	6.14	10.30
淀川区	17	10	27	19.62	11.36	15.45
東淀川区	27	13	40	31.88	15.06	23.39
東成区	11	10	21	28.07	23.69	25.80
生野区	14	8	22	22.65	12.15	17.23
旭区	9	6	15	20.61	12.72	16.51
城東区	17	9	26	21.06	10.25	15.42
鶴見区	10	6	16	18.40	10.20	14.14
阿倍野区	5	2	7	9.93	3.44	6.45
住之江区	15	7	22	25.19	10.99	17.85
住吉区	28	5	33	38.68	6.16	21.49
東住吉区	13	12	25	20.82	17.58	19.13
平野区	23	11	34	24.16	10.63	17.11
西成区	34	8	42	54.08	17.70	38.86
計	305	161	466	23.30	11.65	17.31

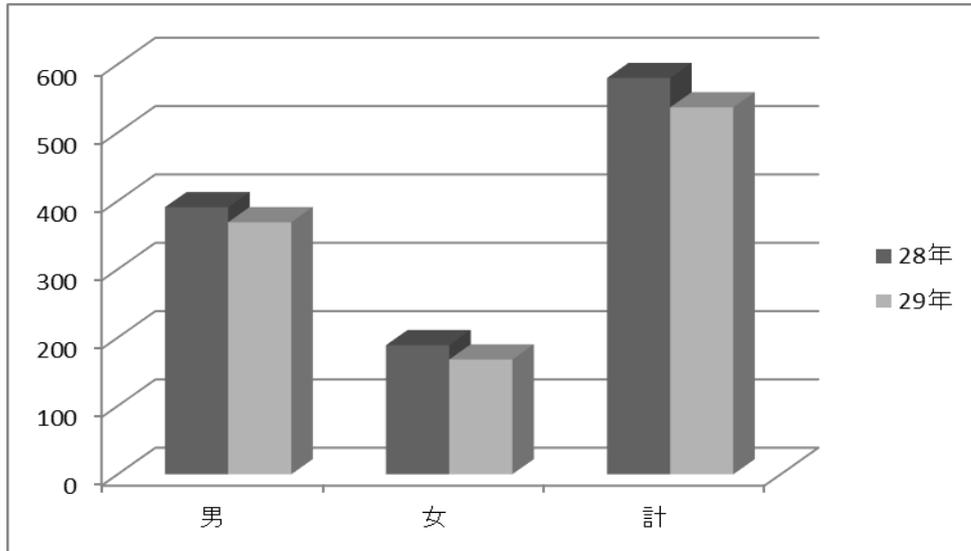
・自殺率＝人口10万人当たりの自殺者数

・自殺率の高い区は ①西成 ②浪速 ③東成 ④東淀川 ⑤住吉

平成29年中と28年中における
大阪市の自殺の状況比較

平成29年中と28年中における大阪市の自殺の状況比較

1 自殺者数・男女別(29-28年 人口動態調査)

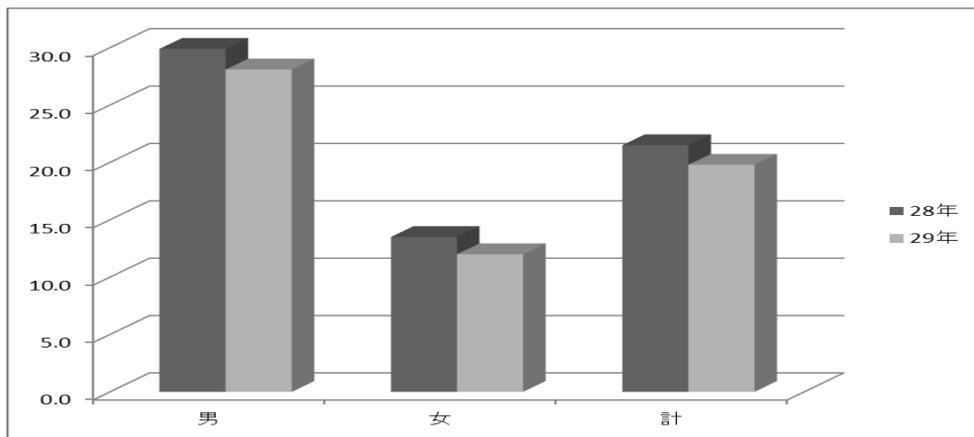


自殺者・男女別数 *前年比43人の減。男性22人減、女性21人減。

(*印は29年と28年の比較についての記述。以下同じ)

年次別	男	女	計
29年	369	168	537
28年	391	189	580
21年	473	215	688

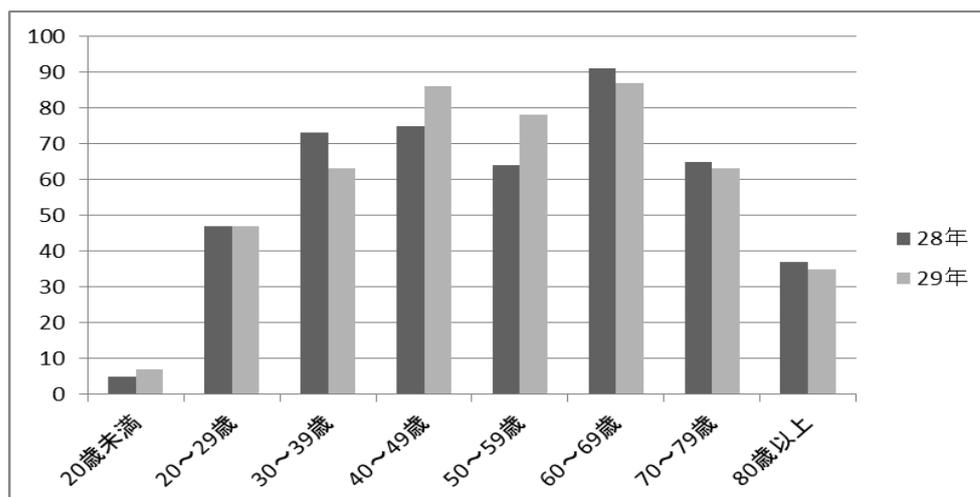
2 自殺死亡率・男女別(29-28年 人口動態調査)



自殺死亡率・男女別 *前年比1.7減少。男性1.8減、女性1.5減。

年次別	男	女	計
29年	28.1	12.0	19.8
28年	29.9	13.5	21.5
21年	36.4	15.8	25.8

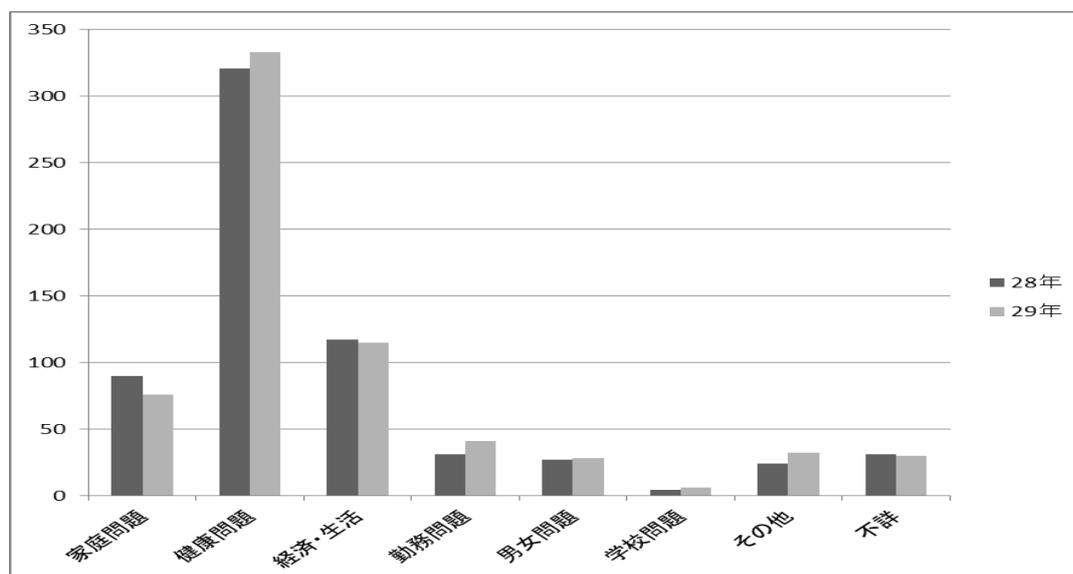
3 年齢別の自殺者数(29-28年 内閣府・警察庁統計)



年齢別の自殺者数 * 20歳未満、40歳～49歳、50～59歳で増加がみられた。

年次別	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
29年	7	47	63	86	78	87	63	35	466
28年	5	47	73	75	64	91	65	37	457

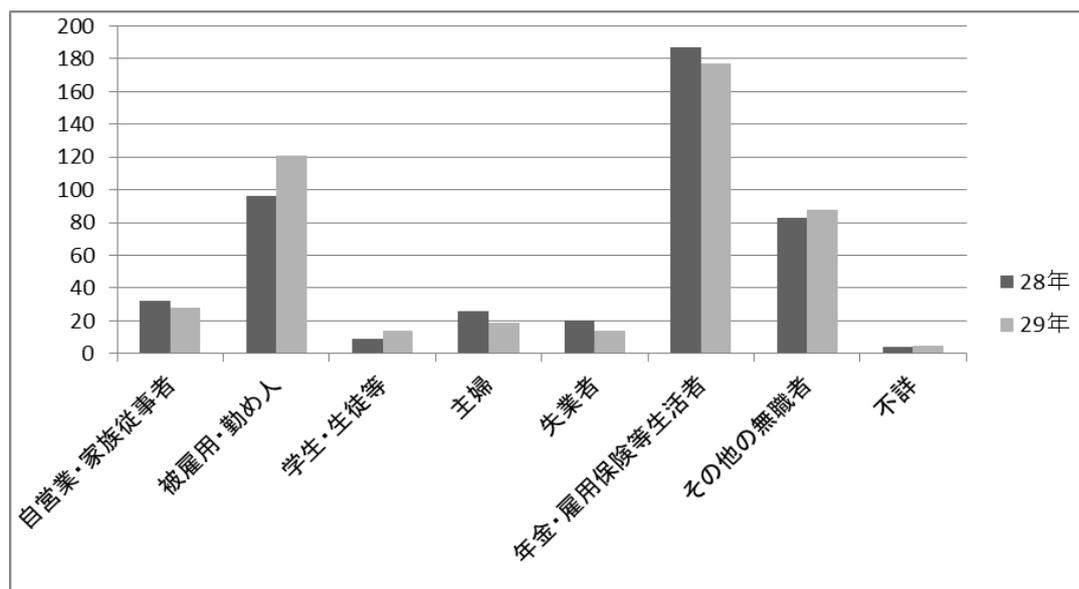
4 原因別(29-28 内閣府・警察庁統計)



原因別 * ほぼ前年と同じ傾向。

年次別	家庭問題	健康問題	経済・生活	勤務問題	男女問題	学校問題	その他	不詳	計
29年	76	333	115	41	28	6	32	30	661
28年	90	321	117	31	27	4	24	31	645

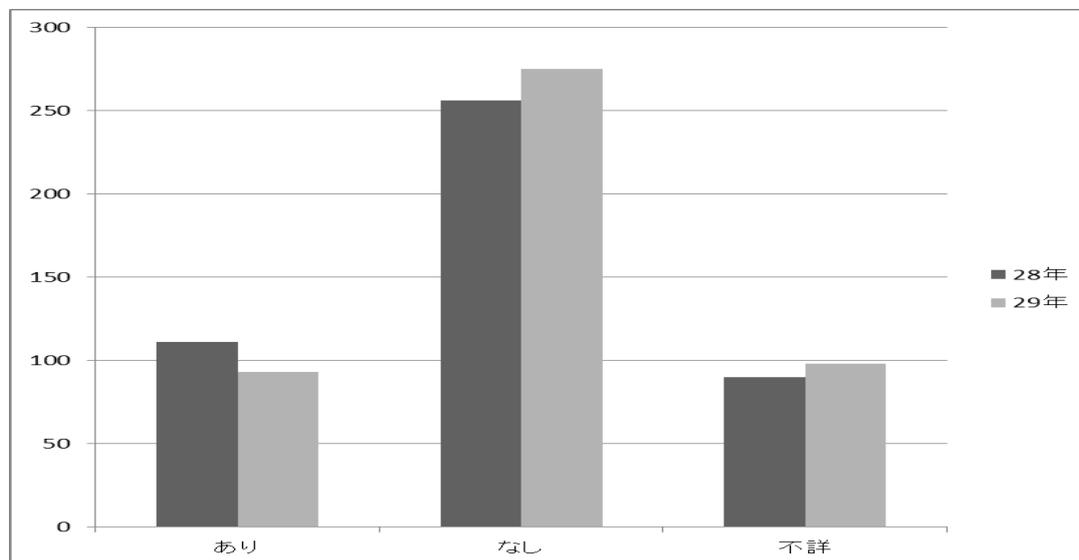
5 職業別の自殺者数(29-28 内閣府・警察庁統計)



職業別 * 被雇用・勤め人が増加、その他の無職者も微増。

年次別	自営業・家族従事	被雇用・勤め人	学生・生徒等	主婦	失業者	年金・雇用保険等	その他の無職者	不詳	計
29年	28	121	14	19	14	177	88	5	466
28年	32	96	9	26	20	187	83	4	457

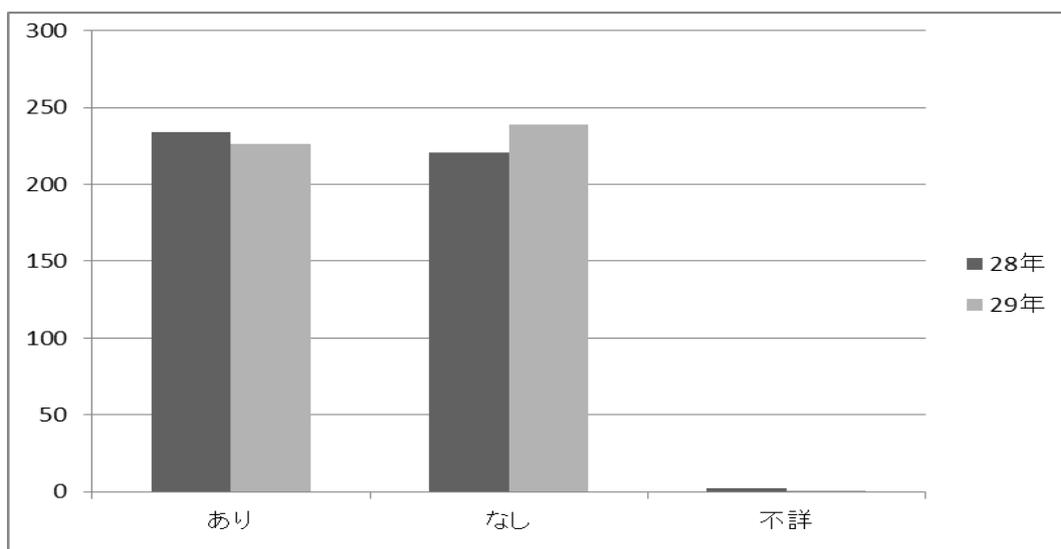
6 既遂者における自殺未遂の有無別(29-28 内閣府・警察庁統計)



既遂者における自殺未遂の有無別 * 自殺未遂歴ありが減少し、なしが増加。

年次別	あり	なし	不詳	計
29年	93	275	98	466
28年	111	256	90	457

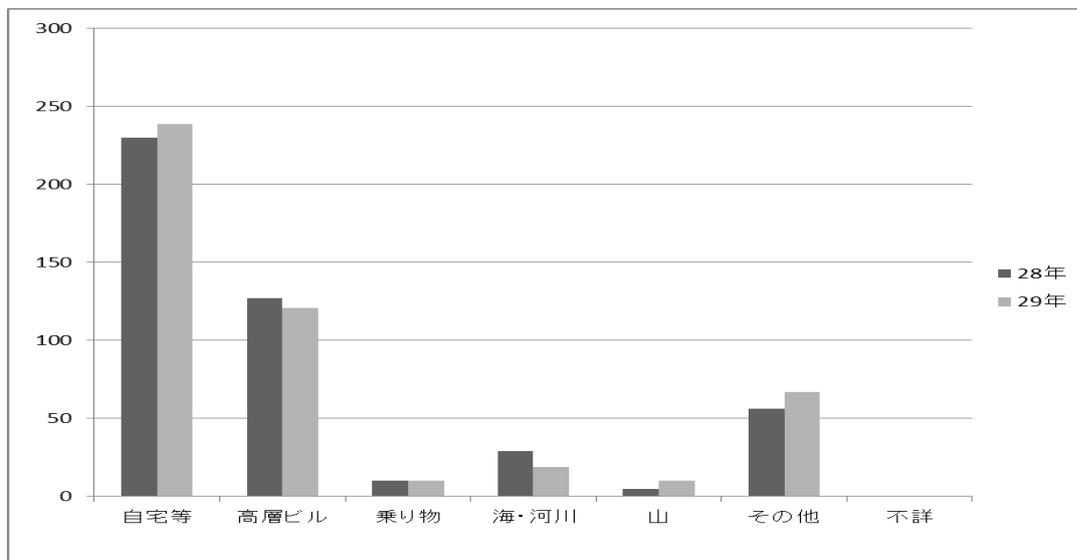
7 同居人の有無別(29-28 内閣府・警察庁統計)



同居人の有無別 * 同居人ありが減少、なしが増加傾向にある。

年次別	あり	なし	不詳	計
29年	226	239	1	466
28年	234	221	2	457

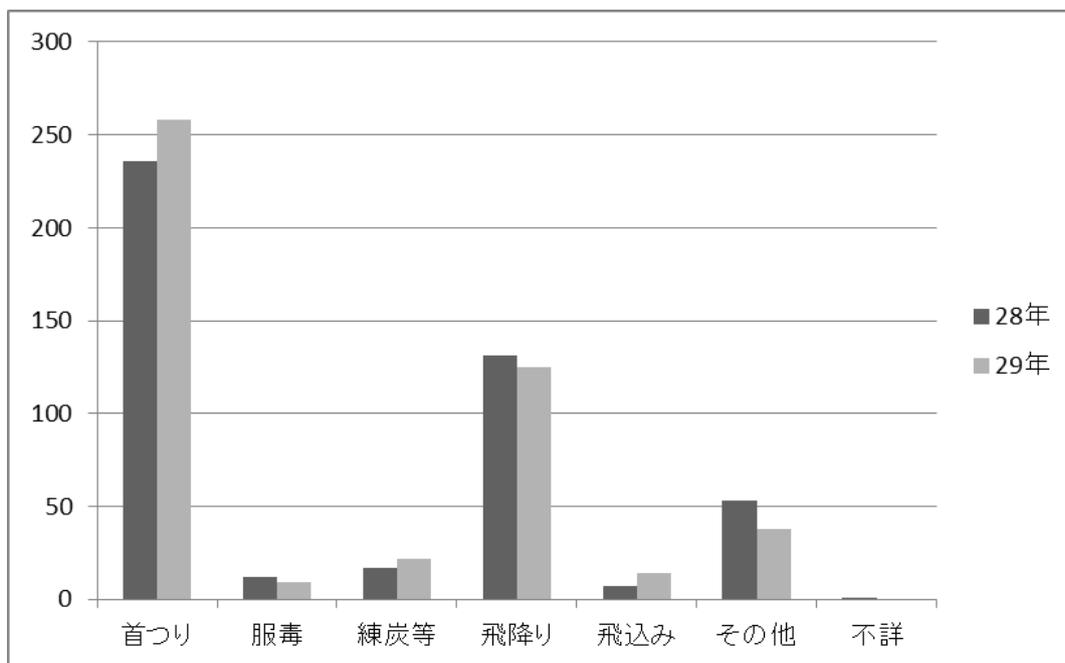
8 場所別自殺者数(29-28 内閣府・警察庁統計)



場所別 * 自宅等が増加し、高層ビル、海・河川が減少している。

年次別	自宅等	高層ビル	乗り物	海・河川	山	その他	不詳	計
29年	239	121	10	19	10	67	0	466
28年	230	127	10	29	5	56	0	457

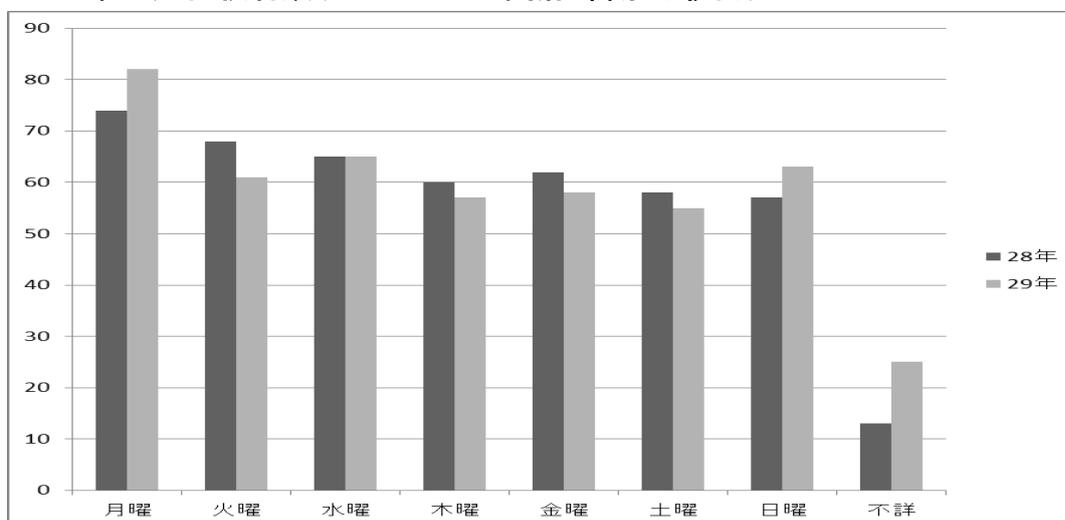
9 手段別自殺者数(29-28 内閣府・警察庁統計)



手段別 * 首つりが増加した。

年次別	首つり	服毒	練炭等	飛降り	飛込み	その他	不詳	計
29年	258	9	22	125	14	38	0	466
28年	236	12	17	131	7	53	1	457

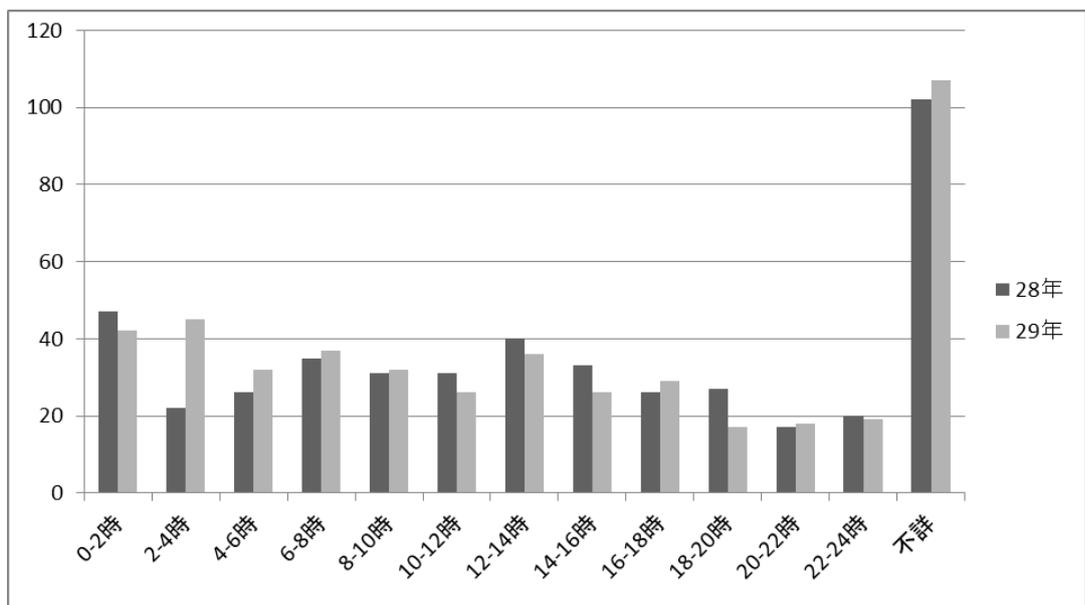
10. 曜日別自殺者数(29-28 内閣府・警察庁統計)



曜日別 * 月曜日と日曜日が増加した。

年次別	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	不詳	計
29年	82	61	65	57	58	55	63	25	466
28年	74	68	65	60	62	58	57	13	457

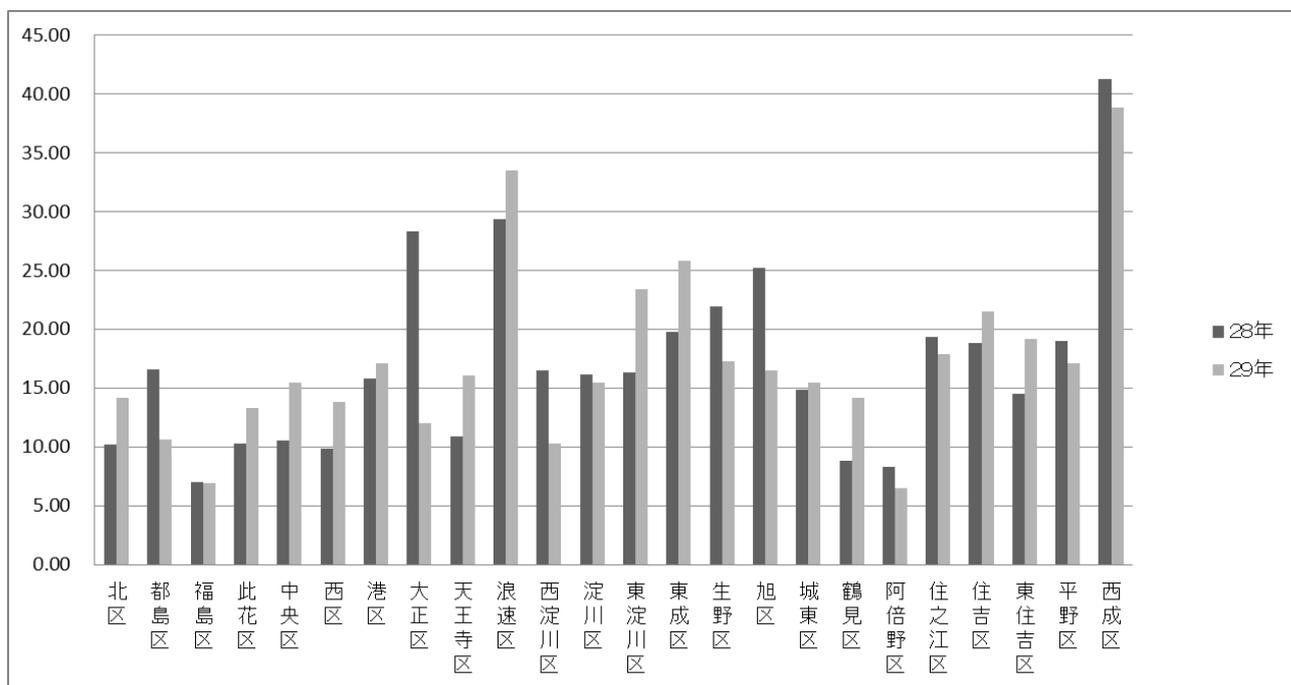
11. 発見時間帯別自殺者数(29-28 内閣府・警察庁統計)



発見時間帯別 * 2～4時が大幅に増加している。

年次別	0-2時	2-4時	4-6時	6-8時	8-10時	10-12時	12-14時	14-16時	16-18時	18-20時	20-22時	22-24時	不詳	計
29年	42	45	32	37	32	26	36	26	29	17	18	19	107	466
28年	47	22	26	35	31	31	40	33	26	27	17	20	102	457

12 区別の自殺死亡率の状況(29-28 内閣府・警察庁統計)



* 11区で増加。

平成9年～29年 都道府県政令指定都市の自殺死亡率の推移【人口動態統計】

Table showing the trend of suicide mortality rates in designated cities from Heisei 9 to Heisei 29. The table is organized by year (平成9年 to 平成29年) in columns and city/region (e.g., 秋田, 新潟, 青森) in rows. Each cell contains a numerical value representing the suicide mortality rate. Some cells are highlighted in yellow or red to indicate specific data points or trends.